

景気ウォッチャー調査(東海地区:2015年10月)

～現状判断DIは3ヶ月ぶりに上昇も、3ヶ月連続の50割れ～

- 11月10日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の10月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の状態に対する判断:各分野計)は前月差2.5ポイント上昇の48.3と3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、10月は同4.1ポイント上昇の48.8と、3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、10月は同0.7ポイント低下の47.3と、3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った(注1)。

現状判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 8月	49.2 (-2.4)	49.3 (-2.3)	49.2 (-1.3)	48.8 (-2.0)	49.3 (-4.3)	50.4 (-3.0)
9月	45.8 (-3.4)	47.5 (-1.8)	44.7 (-4.5)	47.0 (-1.8)	48.0 (-1.3)	48.6 (-1.8)
10月	48.3 (+2.5)	48.2 (+0.7)	48.8 (+4.1)	48.1 (+1.1)	47.3 (-0.7)	48.5 (-0.1)

- 10月の先行き判断DIは、前月差2.5ポイント上昇の51.9と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに上回った。また、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは同4.8ポイント上昇の52.7と、2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに上回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは同2.1ポイント低下の50.3と、2ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。

先行き判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 8月	47.1 (-4.0)	48.2 (-3.7)	45.8 (-4.7)	47.4 (-3.9)	49.7 (-2.6)	49.9 (-3.2)
9月	49.4 (+2.3)	49.1 (+0.9)	47.9 (+2.1)	48.9 (+1.5)	52.4 (+2.7)	49.5 (-0.4)
10月	51.9 (+2.5)	49.1 (0.0)	52.7 (+4.8)	49.3 (+0.4)	50.3 (-2.1)	48.7 (-0.8)

- 現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)は、10月は前月差1.0ポイント上昇の47.6と、3ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を3ヶ月連続で下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは同4.3ポイント上昇の46.6と、2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を下回る状況が続いている。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは同5.4ポイント低下の49.7と、2ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を11ヶ月ぶりに下回った。

現状判断DI(水準)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 8月	49.2 (-1.4)	48.4 (-1.1)	48.2 (+0.1)	47.0 (-0.5)	51.3 (-4.0)	51.2 (-2.3)
9月	46.6 (-2.6)	47.0 (-1.4)	42.3 (-5.9)	45.1 (-1.9)	55.1 (+3.8)	50.9 (-0.3)
10月	47.6 (+1.0)	47.7 (+0.7)	46.6 (+4.3)	46.9 (+1.8)	49.7 (-5.4)	49.5 (-1.4)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 鈴木明彦 塚田裕昭 杉本宗之

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2 / 〒461-851 名古屋市東区葵1-19-30

TEL:03-6733-1070 / 052-307-1106

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「景気は、中国経済に係る動向の影響等がみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、冬のボーナスへの期待等がみられるものの、中国経済の情勢や物価上昇への懸念等がみられる」とまとめ、前月の判断を基本的に維持している。
(9月のまとめ) 「景気は、中国経済に係る動向の影響等がみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、プレミアム付商品券への期待等がみられるものの、中国経済の情勢や物価上昇への懸念等がみられる」
- 東海経済については、「景気は、横ばい圏で推移しており、弱い動きが続いている。先行きについては、ボーナスの増加、自動車のニューモデル投入効果、伊勢志摩サミットの効果がプラス材料となる一方で、中国経済の減速も影響した輸出の伸び悩みが懸念材料となっている」とまとめられる。
(9月のまとめ) 「景気は、横ばい圏で推移しており、弱い動きが続いている。先行きについては、中国経済の減速や世界的な株安に対する懸念はやや落ち着き、インバウンド消費、伊勢志摩サミットへの期待が続いているが、家計動向関連を中心に慎重な見方が続いている」
- 景気の現状判断DIは3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。家計動向関連の現状判断も3ヶ月ぶりに上昇した。天候に恵まれたこともあって季節商品の需要が拡大し、上昇幅は大きかったが、3ヶ月連続で横ばいを示す50を下回った。一方、企業動向・雇用関連の現状判断は3ヶ月連続で低下し、3ヶ月連続で50を下回った。中国をはじめとする新興国景気の減速を背景に輸出が伸び悩みを続けていることがマインドに影響しているようだ。
- 景気の先行き判断DIは、全体と家計動向関連で上昇が続いたが、企業動向・雇用関連では小幅ながら低下が続いている。家計動向関連では、インバウンド消費、伊勢志摩サミットなどへの期待が続き、冬のボーナス増加やニューモデル投入による乗用車販売の増加が期待されている。一方、企業動向関連では自動車の増産への期待があるものの、世界経済の減速による輸出の伸び悩みに対する懸念が強いようだ。

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海=愛知、岐阜、三重、静岡

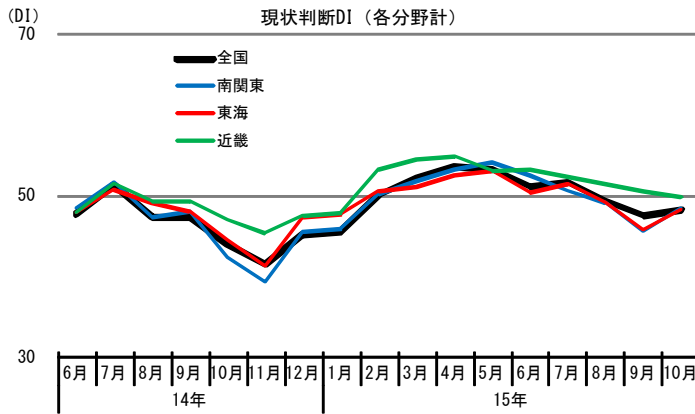
南関東=埼玉、千葉、東京、神奈川

近畿=滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1. DIの動向

(1) 景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

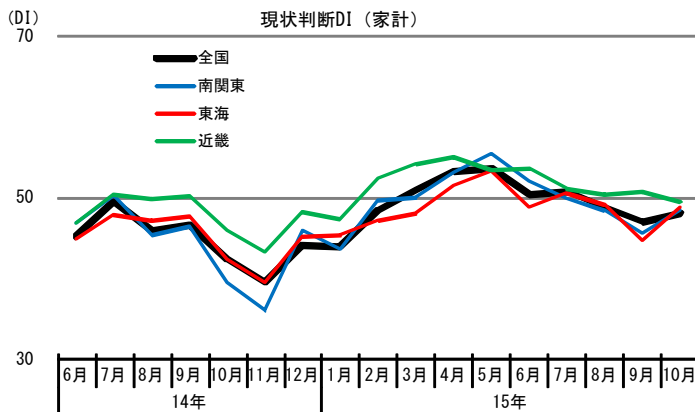
○ 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI（各分野計）は、前月差2.5ポイント上昇の48.3と3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。近畿に比べてやや低く、南関東、全国とほぼ同水準となっている。



■各分野計（家計動向関連+企業動向関連+雇用関連）DI

		全国	南関東	東海	近畿
14年	6月	47.7	48.4	47.9	47.9
	7月	51.3	51.7	50.8	51.4
	8月	47.4	47.3	49.2	49.3
	9月	47.4	48.0	48.0	49.4
	10月	44.0	42.3	44.5	47.0
	11月	41.5	39.3	41.2	45.4
15年	12月	45.2	45.5	47.3	47.6
	1月	45.6	45.8	47.8	47.8
	2月	50.1	50.2	50.6	53.3
	3月	52.2	51.8	51.0	54.6
	4月	53.6	53.2	52.5	54.9
	5月	53.3	54.2	53.2	53.1
	6月	51.0	52.6	50.3	53.3
	7月	51.6	50.5	51.6	52.4
	8月	49.3	49.1	49.2	51.4
	9月	47.5	45.5	45.8	50.5
10月	48.2	48.4	48.3	49.9	

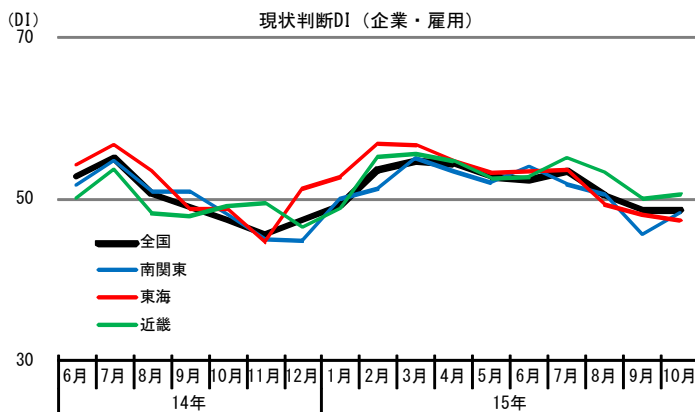
○ 家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、前月差4.1ポイント上昇の48.8と、3ヶ月ぶりに大きく上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。南関東、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



■家計動向関連（小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連）DI

		全国	南関東	東海	近畿
14年	6月	45.1	46.8	44.7	46.8
	7月	49.4	50.1	47.9	50.3
	8月	45.8	45.4	47.2	49.9
	9月	46.7	46.4	47.7	50.2
	10月	42.3	39.4	42.3	45.9
	11月	39.5	36.1	39.5	43.2
15年	12月	44.2	45.9	45.1	48.2
	1月	43.9	43.6	45.4	47.4
	2月	48.4	49.6	47.2	52.3
	3月	50.9	50.0	48.0	54.1
	4月	53.2	53.1	51.5	55.0
	5月	53.6	55.4	53.2	53.4
	6月	50.4	51.9	48.8	53.6
	7月	50.8	49.9	50.5	51.2
	8月	48.8	48.4	49.2	50.4
	9月	47.0	45.5	44.7	50.8
10月	48.1	48.4	48.8	49.5	

○ 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、前月差0.7ポイント低下の47.3と、3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。近畿に比べて低く、全国に比べてやや低く、南関東とほぼ同水準となっている。

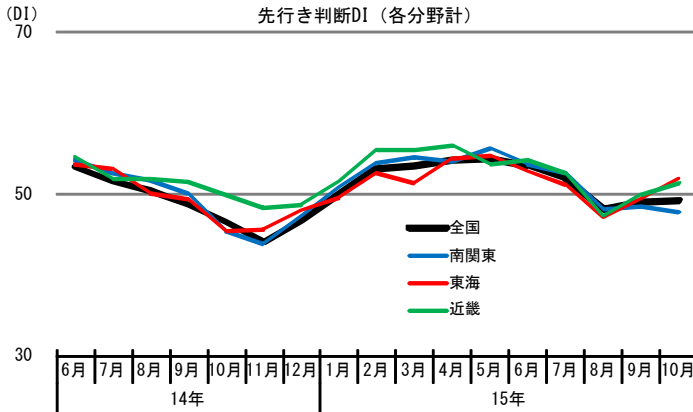


■企業動向関連+雇用関連DI

		全国	南関東	東海	近畿
14年	6月	52.7	51.7	54.2	50.0
	7月	55.1	54.7	56.6	53.5
	8月	50.6	51.0	53.3	48.3
	9月	48.9	50.9	48.7	47.9
	10月	47.3	48.0	48.7	49.2
	11月	45.5	45.0	44.6	49.4
15年	12月	47.4	44.9	51.3	46.5
	1月	49.1	50.0	52.6	48.8
	2月	53.5	51.2	56.7	55.2
	3月	54.7	55.0	56.7	55.5
	4月	54.4	53.5	54.6	54.7
	5月	52.7	51.9	53.2	52.6
	6月	52.3	53.9	53.4	52.8
	7月	53.4	51.7	53.6	54.9
	8月	50.4	50.5	49.3	53.3
	9月	48.6	45.6	48.0	50.0
10月	48.5	48.3	47.3	50.6	

(2) 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

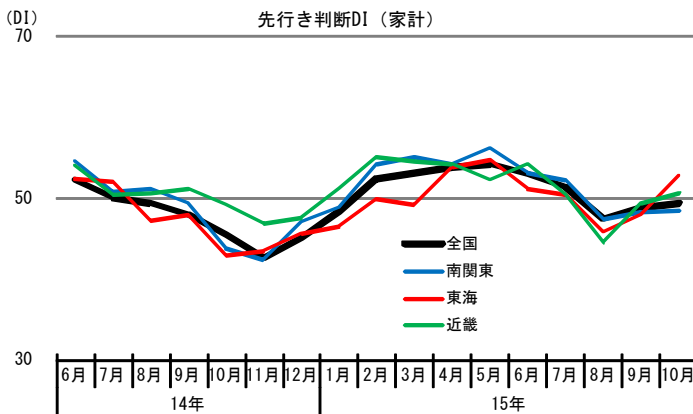
○ 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断D I（各分野計）は、前月差 2.5 ポイント上昇の 51.9 と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を3ヶ月ぶりに上回った。南関東、全国に比べ高く、近畿とはほぼ同水準となっている。



■各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	6月	53.3	54.2	53.6	54.5	
	7月	51.5	52.6	53.1	51.9	
	8月	50.4	51.8	50.1	51.9	
	9月	48.7	50.2	49.4	51.5	
	10月	46.6	45.5	45.5	50.0	
	11月	44.0	43.9	45.6	48.2	
	12月	46.7	47.3	48.0	48.6	
	15年	1月	50.0	50.8	49.6	51.6
		2月	53.2	53.8	52.6	55.5
		3月	53.4	54.6	51.3	55.5
		4月	54.2	54.0	54.3	56.1
		5月	54.5	55.6	54.7	53.7
6月		53.5	53.8	52.7	54.2	
7月		51.9	52.6	51.1	52.6	
8月		48.2	48.0	47.1	47.3	
9月		49.1	48.4	49.4	49.9	
10月		49.1	47.7	51.9	51.4	

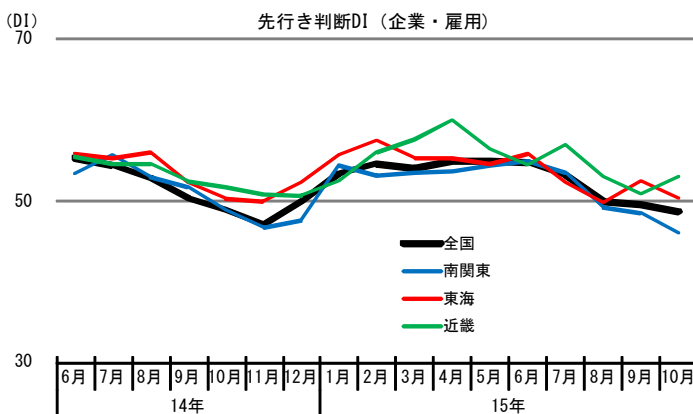
○ 家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、前月差 4.8 ポイント上昇の 52.7 と、2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を3ヶ月ぶりに上回った。南関東、近畿、全国に比べ高い水準となっている。



■家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	6月	52.3	54.6	52.5	54.0	
	7月	50.0	50.9	52.1	50.4	
	8月	49.3	51.2	47.2	50.6	
	9月	48.0	49.4	48.0	51.1	
	10月	45.4	43.8	43.0	49.1	
	11月	42.5	42.3	43.5	46.8	
	12月	45.0	47.1	45.7	47.5	
	15年	1月	48.4	48.8	46.5	51.2
		2月	52.4	54.1	50.0	55.2
		3月	53.1	55.2	49.1	54.5
		4月	53.9	54.2	53.8	54.1
		5月	54.3	56.3	54.8	52.3
6月		52.9	53.2	51.2	54.1	
7月		51.3	52.2	50.5	50.4	
8月		47.4	47.4	45.8	44.5	
9月		48.9	48.3	47.9	49.4	
10月		49.3	48.5	52.7	50.6	

○ 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、前月差 2.1 ポイント低下の 50.3 と、2ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を2ヶ月連続で上回った。近畿より低いが、南関東より高く、全国よりやや高い水準となっている。

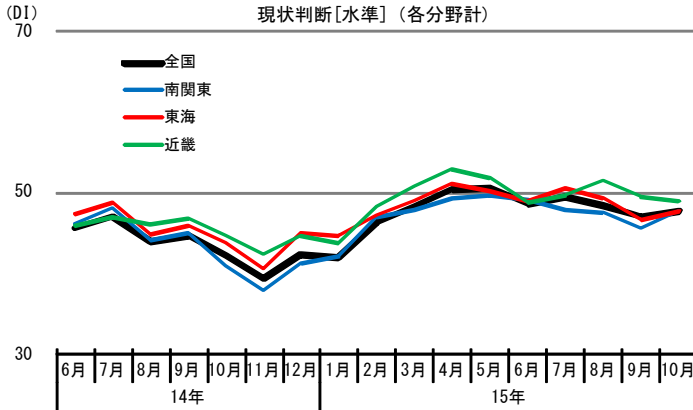


■企業動向関連+雇用関連
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	6月	55.3	53.3	55.8	55.4	
	7月	54.5	55.7	55.3	54.6	
	8月	52.8	52.9	56.0	54.7	
	9月	50.2	51.7	52.3	52.4	
	10月	48.9	48.8	50.3	51.7	
	11月	47.1	46.7	50.0	50.9	
	12月	49.9	47.5	52.3	50.6	
	15年	1月	53.4	54.4	55.6	52.4
		2月	54.6	53.2	57.4	56.0
		3月	54.1	53.5	55.3	57.6
		4月	55.0	53.7	55.3	59.9
		5月	54.9	54.4	54.5	56.3
6月		54.7	54.9	55.7	54.3	
7月		53.1	53.5	52.3	57.0	
8月		49.9	49.3	49.7	53.0	
9月		49.5	48.5	52.4	50.9	
10月		48.7	46.0	50.3	52.9	

（3）景気の現状判断（水準）

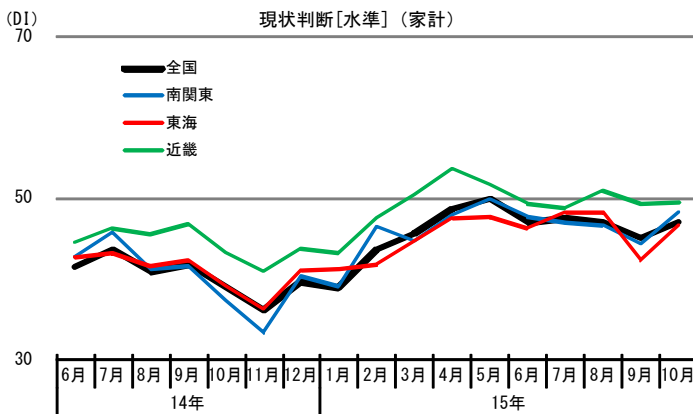
○ 現在の景気的水準自体に対する判断D I（各分野計）は、前月差 1.0 ポイント上昇の 47.6 と、3ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す 50 を3ヶ月連続で下回った。近畿に比べてやや低い、南関東、全国とほぼ同水準となっている。



■各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	6月	45.5	46.1	47.3	45.8	
	7月	47.0	48.0	48.7	47.0	
	8月	44.0	44.0	44.8	46.0	
	9月	44.6	45.0	45.8	46.7	
	10月	42.1	40.8	43.7	44.6	
	11月	39.3	37.8	40.5	42.3	
	12月	42.3	41.3	45.0	44.7	
	15年	1月	41.9	42.0	44.6	43.7
		2月	46.2	46.9	47.2	48.2
		3月	48.2	47.9	49.0	50.8
		4月	50.3	49.3	51.0	52.8
		5月	50.6	49.6	50.1	51.8
6月		48.6	49.2	48.9	48.8	
7月		49.5	47.9	50.6	49.7	
8月		48.4	47.5	49.2	51.5	
9月		47.0	45.6	46.6	49.5	
10月		47.7	47.7	47.6	48.9	

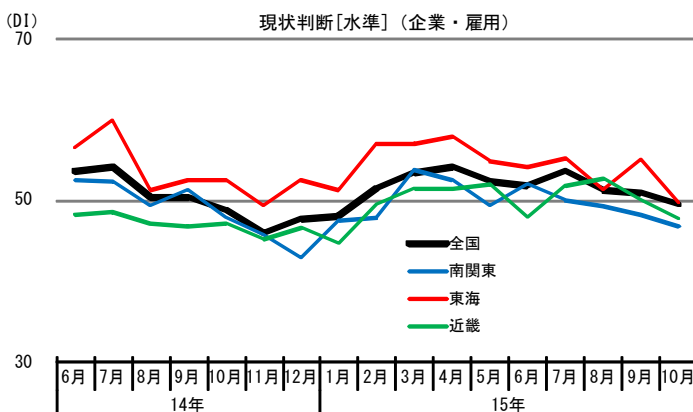
○ 家計動向関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断D I は、前月差 4.3 ポイント上昇の 46.6 と、2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す 50 を下回る状況が続いている。近畿に比べて低く、南関東に比べてやや低く、全国とほぼ同水準となっている。



■家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	6月	41.4	42.6	42.6	44.4	
	7月	43.6	45.6	43.2	46.2	
	8月	40.9	41.2	41.5	45.5	
	9月	41.8	41.6	42.3	46.8	
	10月	38.9	37.2	39.2	43.3	
	11月	36.1	33.3	36.2	40.8	
	12月	39.6	40.4	41.0	43.7	
	15年	1月	39.0	39.1	41.2	43.2
		2月	43.6	46.4	41.8	47.6
		3月	45.6	44.7	44.7	50.4
		4月	48.5	47.8	47.5	53.6
		5月	49.8	49.8	47.7	51.7
6月		47.0	47.7	46.3	49.3	
7月		47.5	46.9	48.1	48.7	
8月		47.0	46.6	48.2	50.9	
9月		45.1	44.3	42.3	49.2	
10月		46.9	48.2	46.6	49.5	

○ 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断D I は、前月差 5.4 ポイント低下の 49.7 と、2ヶ月ぶりに低下し、中立を示す 50 を11ヶ月ぶりに下回った。南関東、近畿に比べ高く、全国とほぼ同水準となっている。



■企業動向関連+雇用関連
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	6月	53.6	52.6	56.5	48.3	
	7月	54.1	52.4	59.9	48.6	
	8月	50.3	49.3	51.3	47.1	
	9月	50.3	51.2	52.6	46.7	
	10月	48.8	47.8	52.6	47.2	
	11月	45.9	45.8	49.3	45.1	
	12月	47.7	42.9	52.6	46.5	
	15年	1月	47.9	47.6	51.3	44.6
		2月	51.5	47.8	57.1	49.4
		3月	53.3	53.8	57.0	51.5
		4月	54.0	52.5	57.9	51.5
		5月	52.3	49.3	54.8	52.0
6月		51.7	52.0	54.1	47.8	
7月		53.5	50.0	55.3	51.7	
8月		51.2	49.3	51.3	52.7	
9月		50.9	48.3	55.1	50.0	
10月		49.5	46.8	49.7	47.6	

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

（1）景気の現状判断

- 10月の東海地区の景気の現状判断D I（48.3）は3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。部門別にみると、家計動向関連の現状判断D I（48.8）も3ヶ月ぶりに上昇したが、3ヶ月連続で横ばいを示す50を下回った。企業動向・雇用関連の現状判断D I（47.3）は3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。
- 現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。10月調査では、「(やや)良くなっている」が増加する一方で、「(やや)悪くなっている」が減少した。9月調査とは反対の動きとなっており、マインドが改善した。もっとも、8月調査の水準までは戻り切れておらず、慎重な見方が続いている。

現状判断 (回答者数)	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	合計
5月調査	6	64	117	35	6	228
6月調査	5	48	121	39	8	221
7月調査	4	51	129	35	5	224
8月調査	4	45	123	46	7	225
9月調査	0	33	127	50	10	220
10月調査	4	39	125	46	8	222

- 家計動向関連では天候要因をプラス材料に挙げるコメントが目立った。9月調査では残暑や台風の影響をマイナス材料として挙げるコメントが多かったが、10月は気温の低下が季節商品の売上にプラスに作用している。
 - ・運動会での飲料や菓子等の販売が売上を底上げしている。気候の冷え込みとともに、肉や野菜等の鍋用食材等を買込む客が見受けられる。(スーパー 店員)
 - ・雨が少なく晴れの日が続いているおかげで、来客数が増えている。(スーパー総務担当)
- 不振が続いている衣料品でも秋冬物の販売でプラス効果を指摘するコメントがある
 - ・海外特選ブランドや宝飾時計等の高額品の動きは引き続き良く、気温が低めであったことから秋物衣料品の動きも活発である。懸念していたインバウンド需要も、引き続き好調である。(百貨店経営企画担当)
- もっとも天候要因が続くのは一時的であり、持続的な押し上げ要因にはなりにくい
 - ・気温は下がって天候も良く、月初めから衣料品の動きも活発化している。ただし、中旬以降は停滞感が続いている。(百貨店経理担当)
- 天候にあまり左右されない季節のイベントとしてハロウィンが定着しているようで、プラス材料として挙げるコメントが出ている

- ・ハロウィンによるイベント効果がある。(テーマパーク経営企画担当)
 - ・比較的雨天が少なく、来客数が伸びている。ハロウィン関連商品の動きが良く、書籍の売上は減少しているものの、手帳や文具でカバーできているため、前年同月に比べると、多少ではあるが売上は伸びている。(その他専門店[書籍]店員)
- インバウンドのプラス効果を指摘するコメントが続いており、中国景気の減速の影響は今のところ現れていないようだ。もっとも、インバウンドが好調な一方で、不振な部分は相変わらずとのコメントもある。
- ・堅調な秋冬ファッション商品に加えて、インバウンドが消費を一層拡大している。(百貨店販売促進担当)
 - ・インバウンド需要による高額品や化粧品、雑貨等によって、来客数や売上高が支えられているが、従来からの客層の来店や購買に関しては、厳しい状況が続いている。長く使えて無駄にならない、安心できる商品の購買が目立ち、衝動買いはしない傾向が続いている。(百貨店販売担当)
- 伊勢志摩サミットはインバウンド需要の喚起が期待されているが、日本人観光客の増加にも一役買っているようだ
- ・好天に恵まれたことや伊勢志摩サミットを前に興味を持った旅行者等の増加等による、プラスの効果がみられる。(一般小売店[土産]経営者)
- 「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。回答合計数が月によってぶれるので単純な比較はできないが、10月調査は9月調査に比べるとやや改善し、良くも悪くも「変わらない」という結果となっている。個々のコメントを見ると、手ごたえを感じている、なんとか持ちこたえている、やはり厳しい、とさまざまである。

現状判断	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答合計
4月調査	1	1	5	3	1	11
5月調査	1	0	4	3	1	9
6月調査	0	1	4	6	0	11
7月調査	0	0	8	4	0	12
8月調査	0	1	5	3	0	9
9月調査	0	0	7	2	1	10
10月調査	0	1	8	1	0	10

- ・販売量は増えてきている。問い合わせの内容も良くなってきており、客の動きが良い。今月の手ごたえは好印象である。(乗用車販売店従業員)
- ・売上がもう少し悪くなると思ったが、思ったより持ちこたえている。新型車種は出ていないが、新車購入を検討する客は多い。下取車には、9年以上前のものや走行距離15万キロ以上の車が多い。連

- 日の高齢者による自動車事故のニュースで、高齢化する団塊世代が子や孫に促されて、自動ブレーキ付の車種に買換えるケースが増えている。(乗用車販売店従業員)
- ・客が興味を持ち購入を考えている車と、メーカーの生産計画にかい離があるのか、新車納入を待つ車種と在庫が増えて販売に悩む車種に二分化している。来客数は減少しており、店頭は活気に乏しく、市場としては厳しい状況が続いている。(乗用車販売店従業員)
- 家計動向関連の状況をまとめると以下のコメントのような状況である。今月は天候に恵まれて少し明るいところもあるが、前出の乗用車販売店のウォッチャーの最後のコメントにもある「二分化」という言葉に象徴されるように、良いところと悪いところが混在した状況が続き、個人消費全体としては回復感が広がっていないと推測できる。
- ・客層が、安い物を購入する堅実な層と高額商品を買求める層に大きく二分化している。アベノミクスで売上が増加しているように感じるが、結局は客の一部であり、全体の売上としては変わらない。(一般小売店[贈答品]経営者)
 - ・客単価が低下している。仕入価格は上がっているのに、安くても見栄えが良くなる工夫をしているが、一本当たりの値段を細かく聞く客が増えている。一方、高くても構わないので良い品物をという客もあり、格差を感じる。(一般小売店[生花]経営者)
- 企業動向関連のウォッチャーのコメントを見ると、輸出の不振を指摘する声があり、背景には中国をはじめとする新興国の景気減速があると推測できる
- ・年初想定よりは輸出が伸び悩んでいるものの、前年同期比で見れば、悪化というほどではない。(電気機械器具製造業企画担当)
 - ・輸出に関連する販売量が減少している。(輸送用機械器具製造業総務経理担当)
- 設備投資については、8月調査から一服感を示唆するコメントが出ていたが、10月調査では投資を減らしているというコメントも出ており、注意が必要である。
- ・客が設備投資を減らしているため、その影響で全体的に悪くなっている。(電気機械器具製造業経営者)
- 家計動向関連における二分化と同じだが、企業動向関連では二極化を指摘する声が続いている
- ・建築業や自動車関連業をみると、比較的大手の企業の景気は若干良くなってきているが、中小企業や下請については、非常に苦しい状況が続いている。企業では二極化が進んでいる。(金融業従業員)
 - ・円安に伴う輸入材料の価格高騰で、中堅企業ではコスト負担が増加している。また、人件費の上昇が、収益性に大きな影響を与えている。(公認会計士)

- 杭工事の問題のマイナスの影響を指摘する声もあった
 - ・杭工事の問題で、マンション販売に影響が出ている。問い合わせがあっても、安全性に関する話ばかりで、マンションへの購入意欲が低下していると実感する。（建設業経営者）

- 雇用関連のウォッチャーのコメントを見ると、駅前の新ビル建設ラッシュや自動車のニューモデル投入に伴う雇用へのプラス効果が指摘されている一方、ドイツ自動車メーカーの不正問題や中国経済の減速がマイナスの影響を及ぼしているという指摘があった。
 - ・ターミナル駅周辺では新ビル建設ラッシュということもあって様々な企業が移転予定であり、求人数が増加傾向である。（人材派遣会社社員）
 - ・自動車メーカーによって差異はあるが、新型車種の発売を控えているメーカーでは、採用者数を確保する動きがある。（アウトソーシング企業エリア担当）
 - ・ドイツの自動車メーカーの不正問題や中国経済の減速から、利益計画を見直す企業が出てきている。大きな動きではないが、一部で求人をストップする企業もある。（民間職業紹介機関支社長）

（２）景気の先行き判断

- 9月の東海地区の景気の先行き判断D I（51.9）は2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに上回った。家計動向関連の先行き判断D I（52.7）も2ヶ月連続上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに上回った。一方、企業動向・雇用関連の先行き判断D I（50.3）は、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回ったものの、2ヶ月ぶりの低下となった。
- 先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。8月調査で、中国経済の減速や株価の下落を背景に先行きの見方が厳しくなった後、2ヶ月連続で改善している。回答の内訳をみると、9月調査では、「(やや)悪くなる」という回答が減少して「変わらない」にシフトすることによるマインドの改善であったが、10月調査では「変わらない」から「(やや)良くなる」に戻っており、先行きの改善期待が強まっていると言える。なお、改善が家計動向関連に偏っていることも10月調査の特徴である。

現状判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	合計
5月調査	7	67	121	28	5	228
6月調査	3	57	127	29	5	221
7月調査	2	48	138	30	6	224
8月調査	1	41	121	55	7	225
9月調査	2	40	134	39	5	220
10月調査	5	57	114	42	2	222

- 家計動向関連では、先行きのプラス材料としてインバウンドに対する期待が続いている。ただし、インバウンドの先細り懸念や供給制約によるマイナス効果を指摘する声も出ている。
 - ・インバウンド消費は、今後も一層拡大すると見込んでいる。(百貨店販売促進担当)
 - ・宿泊部門の不安材料として、インバウンドが若干弱くなっている。宴会部門は、不調がずっと続いていて改善が見込めない。(都市型ホテル支配人)
 - ・訪日外国人客が増えることは、旅館等にとっては良いが、旅行者にとっては、宿泊先が取りにくくなり、売上が伸びない要因となっている。(旅行代理店経営者)
- 伊勢志摩サミットも近づき、ビジネスへのプラス効果を期待するコメントも具体性を帯びてきている。
 - ・伊勢志摩サミットまで200日となり、マスコミに登場する頻度が高まり、注目を集めている。商売でも相乗効果を期待する。(一般小売店[土産]経営者)
- 東海地区には業績好調な大手企業が存在することもあって、冬のボーナス増加に対する期待が高まっている。しかし、夏のボーナスに対する期待も盛り上がったが、実際にはあまり効果が無かったことに注意が必要だ。

- ・冬のボーナス支給額が平均して前年を上回るとのことで、年末年始商戦には相当な期待が持てる。
（衣料品専門店[紳士服洋品]売場担当）
 - ・当地域は大手自動車メーカーが非常に好調で、ボーナスシーズンに入ればかなり良くなると期待している。（タクシー運転手）
- 現状判断でもみられた二極化の動きに対する懸念は先行きでも続いている。
- ・一部の客や会社では需要が大きく伸びるかもしれないが、裾野を支えている人々の需要は減っている。一部の客層で売上を確保しているが、裾野の幅広い客層では財布のひもが固くなっており、そのマイナス分で全体としては変わらない。客層が二極化している。（一般小売店[贈答品]経営者）
- 杭工場の影響は現状判断でもコメントがあったが、先行きの懸念材料としても挙げられている。
- ・持家住宅が増加している。また、公共、民間共にリフォーム、大規模改修工事や耐震工事が増えている。ただし、杭工場の不祥事が、マンション工事にマイナスの影響を与えている。（住関連専門店営業担当）
 - ・今のところ先行きに大きな変化は感じられない。建築業界を揺るがす事件があり、受注に影響がなければと願う。（住宅販売会社従業員）
- 乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、4月調査で夏のボーナス増加への期待もあり改善した後、5月調査以降は期待がやや剥落した状況が続いていたが、10月調査では「(やや)悪くなる」という回答が無くなり、先行きに対する見方は改善している。コメントを見ると、ニューモデル投入に対する期待が高まっている一方で、全体的な盛り上がりには力不足との見方もある

先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	回答合計
4月調査	0	6	5	2	0	13
5月調査	0	3	8	1	0	12
6月調査	0	3	8	1	0	12
7月調査	0	2	8	2	0	12
8月調査	0	2	7	3	1	13
9月調査	0	3	9	1	0	13
10月調査	0	4	8	0	0	12

- ・待望の新型車種の発表を控えており、先行予約もかなりの台数が入っているため、今後も期待ができる。（乗用車販売店従業員）
- ・12月に新型車種が発売となり、店頭での盛り上がりを期待している。客の動きが市場を盛り上げ、営業マンの動きも良くなって、客の購買意欲の更なる喚起を期待している。（乗用車販売店従業員）
- ・相変わらず景気のいい話は聞かない。人気車種の新モデル等では、予約も順調なようであるが、全

体には大きな影響はないと思われる。（乗用車販売店経営者）

- 企業動向関連では、自動車の増産に期待する声がある一方で、中国経済の低迷が頭を押さえるという懸念が示されている

- ・地元自動車メーカーの生産計画では、当面は増加が見込まれ、部品メーカーの生産も堅調に推移すると見込まれる。（金融業法人営業担当）

- ・中国経済が低迷している。国内向け新車向けの需要があるとはいえ、部品発注を受けている部品メーカーは良いが、そうではないメーカーの業績は悪化し、二極化していく。（輸送用機械器具製造業総務経理担当）

- 雇用関連のウォッチャーのコメントとしては、現状判断でもコメントがあった駅周辺のビルの建設ラッシュに期待するものがあつた。

- ・年内から年度内はこのまま変わらない。ターミナル駅前のビルの建設ラッシュで、人や金が動くことを期待したい。（新聞社[求人広告]営業担当）

- 設備投資が増えそうだという企業動向関連のウォッチャーのコメントがある一方で、雇用動向関連のウォッチャーからは機械受注の減少を懸念材料として挙げるコメントが出ている。東海地区は工作機械などで強みを持つ企業が多く、景気の先行きを考える上で注意しておく必要がある。

- ・年末にかけて客の設備投資が若干増える期待があり、今月からは仕事があると連絡を受けたことから、先行きはやや良くなる。（電気機械器具製造業経営者）

- ・機械受注が下降傾向にあり、先行きが懸念される。（人材派遣会社経営企画）

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方向性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。